

I 建学の精神

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 八戸大学の建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

八戸大学は、カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする。

八戸大学の建学の精神は「神を敬し、人を愛する」ことであり、「カトリック精神にのっとり、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の形成、特に地方時代の到来にこたえる地方文化、地域経済に密着した教育をすること」を教育理念としている。

八戸大学の設置母体である学校法人光星学院は、光星学院創設者の中村由太郎による幼児教育から成人教育までの「立体的総合学園構想」に基づき、幼稚園、高等学校、短期大学、大学を設立した。中村由太郎の教育の理念は、地域社会の経済・文化活動の発展に寄与する人間的、人道主義的精神に従属せしめる行動理念を持った職業人の育成や隣人愛の実践であった。その教育信条は今日に至るまで脈々と息づいている。

2. 八戸大学の教育目的

本学の教育目的は、八戸大学学則（以下、学則）（資料 F-3）第1条に次のように規定している。

八戸大学	八戸大学は、カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主的にして平和を愛好する人材を育成することを目的とする。
ビジネス学部	ビジネス学部は、商業・経営・会計・情報等ビジネス関係の学問について学ぶことを基礎とし、それぞれの従事する職業を通して地域課題を分析し、解決できる公益性・実践力・専門性・採算性の能力を兼ねそなえたビジネスマインド、チャレンジシップを有し、地域発展に資する人材の育成を目的とする。
人間健康学部	人間健康学部は、こころとからだの健康について学ぶことを基礎とし、医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等幅広い分野における研究・指導と現代社会における健康に対するニーズを実現できる人材の育成を目的とする。

3. 八戸大学の個性・特色

(1) 八戸大学の設立の経緯

八戸大学は、地域の商業発展への要請に基づき、昭和 56(1981)年に「商学部」として発足した。平成 16(2004)年には、地域の自立的発展のためには商業のみならず、広く起業・ビジネス全般に通じる人材育成が重要になってきたとの認識で、商学部を包摂する「ビジネス学部」に改称した。更に、平成 17(2005)年には、「健康・保健・福祉」をキーワードとした地域の多様なニーズに応えるべく「人間健康学部」を設置し今日に至っている。

そこに共通する個性・特色とは、「地域社会の発展に貢献する大学」であるということであり、そのためには教職員が常に地域と共に存在し、そのニーズに応えることを希求しつつ教育・研究を行い、自らも発展していくということである。

創設者中村由太郎は、生前にどのようにしたら有為な人材を育成することができるかを考え抜き、教職員には「どのような生徒にも知恵を絞って教えなさい。」とたびたび諭した。

理事長は、その意思を受け継ぎ「教職員自らが、豊かな人格・教養を有し、地域社会貢献への実践力を備え、学生・生徒と共に汗を流す存在たれ」と、その指針を繰り返し述べている。

(2) 建学の精神の原点と個性を生かした大学改革

第一次経営改革（平成 18(2006)年～平成 22(2010)年）の断行により、法人全体の財務経営は危機的状況を脱しつつある。しかし、ここ数年、本学の学生定員充足率は厳しい状況にあり、今改めて「建学の精神」と創設者の言葉を教職員一人一人が再認識し、教学運営の大改革に着手した。

改革の主な方針は次のとおりである。

- A 学生へのサービス向上を徹底的に追求するため、学生支援センターを設置し、「教育の質」に重点を置いた教学面での改革を行う。
- B 本学の特徴・強みであり、地域社会からも高く評価されている「地域社会貢献活動」の一層の強化を図る。
- C 改革は法人全体で取り組み、大学内各組織の迅速な意思決定、遂行および検証を強化する。

本学は、開学から 30 年間にわたり、地方に立脚する大学としてグローバルな視点を重視して運営してきた。その伝統と絆を、今後も本学の立ち位置として設定し、地域社会の発展に貢献する地方大学としての使命と誇りを持ち、地域と共存し、ニーズに的確に応えるため「実践的教育と研究」を行い、自らも発展していく。